



パック連通信

事務局：山梨県大月市御太刀 1-2-10

No.121 2022年6月15日発行
全国牛乳パックの
再利用を考える連絡会

TEL.0554-22-3611

牛乳パック再利用マーク誕生 30年

今年、牛乳パック再利用マークが誕生して30年を迎えます。パックマークは、市民が提案したマークであり、牛乳パック再利用運動によって築かれた市民・量販店・回収事業者・受け入れ製紙メーカーのネットワークの象徴でもありました。今号では、パックマークの発足までの経緯その後の展開について改めてご紹介したいと思います。

1992年 牛乳パックリサイクルピンチ説浮上

1984年に始まった牛乳パックの回収運動の盛り上がりにより回収率は0.01%から10数%となりました。

しかしながら折からの世界的なパルプ市況の低下、それを原料とするパルプメーカーの攻勢により牛乳パックを受け入れている家庭紙メーカーは、商品シェアを落としていました。

マスコミにも「牛乳パックリサイクルピンチ！」と大々的なタイトルで取り上げられてしまい、各地の回収運動に影を落としました。

こうした状況を受け、牛乳パックの受け入れ製紙メーカーと主要な市民グループにより、「牛乳パック再利用製品利用拡大作業委員会」（1992年1月～7月）を発足し、作業委員会では、全国1000人対象とした再生紙の利用実態調査と、全国500店のスーパー・小売店の聞き取り調査に乗り出しました。調査を踏まえて、消費者は牛乳パックの回収には協力しているが、再生品の購入まで意識が伴っていない、販売店は店頭回収はしているが、再生品の販売比率は低いということが判明しました。



1992年



消費者にわかる目印をつくらう！市民発のシンボルマーク

作業委員会において消費者意識を変えるには、自分たちが回収に出した牛乳パックが、製品になって帰ってきたことがわかる目印が必要ではないかという結論に至り、牛乳パック再生製品につけるマークを決めることとなりました。公募やデザイナーによるマークのデザインを3案まで絞り、最終決定は北九州市にて開



催する「第6回牛乳パックの再利用を考える全国大会」（1992年8月1～2日）の参加者の投票で決めることとなりました。第6回全国大会には2日間で延べ3000名の方が参加され、パックマークについても投票していただいたところ、大多数で現在のマークが選ばれました。その瞬間が前頁一番上の写真ですが、決まったマークにスポットを当てて会場の参加者にお知らせしました。

「集めてつかうリサイクルキャンペーン」を全国各地で展開

パックマークが決まったところで、まず作業委員会に参加いただいた再生紙メーカー各社に、製品への掲示をお願いしました。さらに広く認知してもらうために、牛乳パック再利用マーク普及全国キャラバン「集めてつかうリサイクルキャンペーン」を、再生紙メーカーに協賛いただき展開していきました。全国各地のスーパー店頭や公設市場、自治体の環境展等、5年間にわたり455か所で実施しました。

キャンペーンには市民グループ、消費者団体、福祉作業所と共にパックマーク使用製紙メーカーの社員も一緒に参加し、再生製品がパルプ製品と全くそん色がないことを、直接消費者に訴えました。

その活動が評価され、1998年に第1回グリーン購入大賞優秀賞を受賞しました。



牛乳パック再生紙キャンペーン全国キャラバンの足跡は、尼崎市のみんなの労働文化センターの永岡さん（左下写真）を中心に「5年間の記録（写真真ん中）」として冊子にまとめていただきました。その冊子を読むたびに、多くの人々による情熱と地道な積み重ねが、牛乳パック再利用運動に新たな風を吹き込み、歴史をつくり今に至っていると、感慨深い思いにかられます。その年月・熱量・足跡はお金を出せば何とかなるものではない、とても貴重な実践活動でありました。現在、牛乳パック再利用マーク掲載誌・書籍等は社会科や家庭科の教科書を含め、632に上っています。

2021年度の活動実績と今年度の活動予定について、以下の通りご報告いたします。

2021年度全国パック連活動報告

1 広報活動

- ・パック連通信発行4回、ホームページの随時更新

2 啓発活動

- ・松戸市学童保育の会出前授業
- ・「学校給食用牛乳パックリサイクルのすすめ」の作成
(牛乳パック再利用マーク普及促進協議会との連名)

3 牛乳パック再利用マーク普及活動

- ・書籍等へのパックマーク使用申し込みの対応

4 その他

- ・牛乳パックリサイクルに関する問い合わせ対応
- ・総会を通して、牛乳パック再利用マーク使用メーカーとの情報交流
- ・ウクライナ人道支援への寄附

2022年度全国パック連活動計画

1 広報活動

- ・パック連通信の発行、ホームページの随時更新

2 啓発活動

- ・牛乳パックリサイクル出前授業及び講習会の実施（相模原市など）
- ・学乳パックリサイクルの推進
- ・牛乳パックリサイクル啓発パンフレットの改訂

3 牛乳パック再利用マーク普及活動

- ・牛乳パック再利用マーク普及促進協議会総会の開催
- ・パックマーク普及用オリジナルトイレットペーパーの制作
- ・パックマーク30周年キャンペーンの実施

4 その他

- ・オンラインによる情報交換会等を随時開催

*6月13日に、牛乳パック再利用マーク普及促進協議会の総会が開催されました。パック連の主な活動である出前授業や学乳パックリサイクルの啓発、パンフレットの改訂について協働、支援をしていただくことが承認され、それに基づいて活動計画を記載しております。

ひまわり環境寄席にご招待いただきました

防犯・防災・環境をテーマとした漫才を、各地で公演している林家カレー子さんより、「第1回ひまわり環境寄席」にご招待いただきました。

相方でありご主人のライスさんを亡くして、現在は娘のまる子さんとコンビを組んで、公演活動を行っています。これまで防犯・防災をテーマとしたひまわり寄席、環境をテーマにした環境寄席を開催してきましたがコロナ禍で中止が続いていました。今年からひまわり・環境寄席を一緒に開催することとなり、第1回目が5月7日に行われました。

当日は待ちに待ったお客さんで大入りとなり、牛乳パック（100枚で入場券と交換）もたくさん集まっていました。



会員さん情報

農事組合法人綾豚会 (りょうとんかい)

宮崎県綾町において「ぶどう豚」というブランド豚を生産しておられます。

グリーンコープ納入業者の会を通じて、2004年より購読会員に加盟いただきました。

ぶどう豚を扱っている(株)SINGAKIのサイトでも綾豚会さんについてご紹介しております。

以下概要をご参照ください。

【綾豚会で飼育しているぶどう豚は、代表の江島さんが綾町で生産されているワインの葡萄粕を有効活用できないかと考案したのが始まり。長い試行錯誤の時間を経て誕生した「ぶどう豚」に懸ける綾豚会の皆さんの情熱は並々ならぬものです。綾町に数多くある豚農家の中でも厳しい肥育環境僅か水準をクリアした選りすぐりの2軒の農家でのみ生産肥育されています。全ての豚は、遺伝子組換えでないトウモロコシや麦などを自家配合した飼料で飼育。豚の肉は脂が黄色くなりやすく、肉質もストレスの少ない環境と相まって柔らかいです。】 <https://www.shingaki-net.co.jp/budoubuta.html>



ぶどう豚は、豚の臭みが全くなく透明感のある味で、ポン酢和え、アスパラなど野菜肉巻きなどで美味しくいただきました！
綾町のふるさと納税返礼品でも取り扱っています。

オイシックス・ラ・大地株式会社

日本経済新聞

2022. 5. 21

つなぐ冒頭の試みも、そのひとつといえる。

壁があるならどんどん取り除いていきたい。企業の仲立ちで助言を望む若い社員を先輩社員と

▼女性が進むことに今も壁がある。産業医の矢島新子氏は著書「ハイスベック女子の憂鬱」で、セクハラなどとともに育児休業明けの「復職恐怖症」を挙げる。仕事のスピードや休業中の変化についていく不安。夫と分担するにしても大変だろう育児との両立。さまざまな理由からキャリアを断念する。惜しい話だ。

▼単なる儀式ではなく、復帰者の不安を取り除くのが本当の目的だ。社長や先輩社員から助言や失敗談が続く。仕事も家事も満点ではなく合格点でよし。部屋なんて散らかっていてもOK。長い目で見て仕事を継続してほしい」といふ社長の言葉は本心だろう。育てた人材を失うのは企業にとっても大きな損失になる。

「復職おめでとう。いや、ありがとう、ですね」。食品宅配大手オイシックス・ラ・大地の「復職式」を先日、見学した。高島宏平社長の感謝の言葉から式は始まる。育児休業から復帰する男女12人の社員を歓迎する場で、今年が6年目。近年はオンラインで開催する。

当会の評議員として、長年ご鞭撻いただいている藤田和芳氏（パック連個人賛助会員）が会長を務められているオイシックス・ラ大地（株）の記事です。人材育成は簡単ではなく、社員を大事にすることは、実は人を大切に思う気持ちを持つことが大前提だと感じました。

*1985年の全国パック連発足当時より、事務局や会の運営を一緒に担っていただいた大地を守る会（有機無農薬野菜や安全な食べ物の流通）が2017年にオイシックス（株）と経営統合しオイシックスドット大地として生まれ変わり、2018年には「オイシックス・ラ・大地株式会社」に社名を変更しています。

◎パック連通信は、ホームページにも掲載しています。画像などカラーで見ることができますのでホームページの方もご覧ください。

◎牛乳パックリサイクル・牛乳パック再利用マークについてのお問い合わせは

全国牛乳パックの再利用を考える連絡会 / 牛乳パック再利用マーク普及促進協議会

TEL.0554-22-3611

FAX.0554-56-9216

E-mail info@packren.org

ホームページ <http://www.packren.org>

〒401-0012 山梨県大月市御太刀 1-2-10